

1 総括についての評価

【安心・安全な教育の推進】

日々の児童把握のために、教職員が気づきや違和感その他の情報の共有化を綿密に行い初期対応やチームで分担して子どもに関われるようにした。月に1回以上、必要に応じて校内全体で共有し、学校全体で対応ができるようにした。教職員から児童への目配り、声掛け等を密にし、対応に苦慮する案件が生じてもチーム学校として解決に臨み、安心して過ごせる居場所になるようにしてきた。また、規範意識を高めるために教職員が対応をそろえることで、学校アンケートで「学校の決まりやルールを守っている」に肯定的な回答をする児童の割合が目標を上回った。更にはスペシャルサポートルームとの連携で不登校の未然防止を図り、不登校児童、不登校傾向児童の登校は昨年度以上に改善された。いじめ対応は「心の天気」を含めた日々の観察や学期毎の「いじめアンケート」で実態把握を行いながら、学級・学年での早期対応をめざした。「いじめはいけない」と答える児童の割合も高められた。学級活動、児童会活動、学校行事案件にも児童が積極的に参画できる場を設け、自分の思いや考えを自然と出せる関係づくりに努め、児童が活動をやり遂げることで達成感や異学年交流で必要とされる喜びを味わえる機会を増やすことができた。様々な取り組みを工夫したことで不登校児童の欠席割合も少しずつであるが減少している。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「学びの大切さ」について根気強く子どもたちに伝え続けながら個々の実態把握に努め、担任、学びサポーター、専科教員などが連携して個別指導などの工夫を施した。すべての児童の状況を把握し、個々に合うように教材作成や声掛けを丁寧に行った。モジュールタイム等を活用し、算数の計算や漢字の反復練習、学習内容のやり直しを徹底し取りこぼしの無いよう基礎学力の向上に取り組んだ。一人一台学習用端末を活用することで学習時の意見交流方法の幅を広げることができた。児童が主体的に学習活動に取り組めるような指導方法の工夫を研究の柱に取り入れて全教職員が討議や研修を繰り返し行い、指導力向上に努めた。すべての学習や活動の力を向上させるために、児童間同士の意見交流など学び合いの機会を増やしていく。

健康的な生活習慣の確立においては「元気アップウイーク」を設け児童の意識付けを図り、運動能力を維持するためには、かけあし、なわとびなどの基礎体力づくりを実施した。経年調査の児童アンケートの結果では「運動をすることが好き」と答える児童の割合も維持できている。

【学びを支える教育環境の充実】

児童は毎日、一人一台学習用端末を「心の天気」、「調べ学習」「デジタルドリル」「画像の編集」「発表データ作成」「アンケート調査入力」等様々な活用している。今年度は9月に端末の更新があり全ての学年が2学期から一人一台学習用端末に慣れ親しむ活動を行うことができるようになった。教職員の研修会も実施され、知識の共有を図りながら日々指導力向上に向けて取り組んでいる。また、校務において端末処理がほとんどであり、教職員が業務にかかる時間も減少できるようになっている。

教職員の健康維持を目標とした業務終わりの時間を意識し、勤務が終わってから自身の体を休める時間の確保のために「ゆとりの日」の設定を毎週行った。学校行事などは時間超過してしまうこともあるが、「ゆとりの日」や長期休暇3日以上の設定や45時間以上の超過勤務を減らすことは意識付けられてきている。令和6年度より超過勤務者の割合も下がってきている。安心して働ける職場づくりにつなげるために、この取り組みを継続して行っていく必要がある。

2 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

年度目標：
○令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83.5%以上にする。 (基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)
年度目標：
○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を、前年度より減少させる。 (基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)
○大阪市学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の項目において、最も肯定的な回答の割合は、85.8%と目標である83.5%を上回っている。 ○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率はR7年度2月現在1.37であり、R6年度2.04より、減少している。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標：
○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を41.3%以上にする。 (基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加)
○令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加)
○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78.8%以上にする。 (基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加)
年度目標：
○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65.8%以上にする。 (基本的な方向5 健やかな体の育成)
○令和7年度の小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。(基本的な方向5 健やかな体の育成)
○大阪市学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の項目において、最も肯定的な回答の割合は、40.8%と目標である41.3%を下回った。 ○大阪市学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好き。」の項目において、肯定的な回答の割合は、79.9%で目標である78.8%を上回った。 ○大阪市学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好き。」の項目において、最も肯定的な回答の割合は、68.1%と目標である65.8%を上回った。

○大阪市学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか。」の項目において、肯定的な回答の割合は、93.7%で目標である93%を上回った。

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標：
○授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の73.5%以上にする。 (基本的な方向6 教育DXデジタルトランスフォーメーション) (前年度 73.4% 12月現在 86.3%)
年度目標：
○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(超過勤務45時間未満)を満たす教員の割合を91%以上にする。 (基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり) (前年度90% 12月現在 95.1%)
○「授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数の割合」は、4月から12月では平均86.3%で、授業日の73.5%以上で学習用端末を活用することができた。 ○4月から12月の勤怠状況において、超過勤務45時間未満の教職員の人数の割合は、95.1%(9月時点)より高く目標の90%を上回った。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・「運営に関する計画・最終評価」における、自己評価結果は妥当である。その結果を「学校関係者評価」として承認する。
- ・複雑化しているいじめの原因や不登校児童の未然防止や改善に目を向けて、きめ細かく適切な対応と関係諸機関との連携を深めてほしい。
- ・一人一台端末の活用、双方向通信も取り入れながら、学習方法の試行錯誤の工夫を繰り返している。多様な視点でICT教育を活用工夫していけるよう教職員の努力に期待する
- ・豊里小学校は教職員が団結し、子どもの教育に懸命に取り組んでいる。今後も子どもたちのために教職員一丸となって力を注いでいくことを期待する。
- ・取組の継続化、さらなる小中連携の充実に向けて計画的に進めていくことを期待する。